



人は、
自分が立つ場所を、
選んでいない。

人は、場に入った瞬間、
すでに「どこに立つか」を終えている。

考えるよりも前に、
身体が、その位置を引き受けてしまう。

それは、性格の問題ではない。
積極性や内向性の話でもない。

空気を読んだ結果でも、
役割を与えられたからでもない。

「前に出る人」「引く人」という分類は、
あとから貼られた説明にすぎない。

位置は、
選択の末に決まるものではない。

人は、場に入るとき、
無意識に距離と重心を置く。

中央か、端か。
誰の視線の延長に立つか。
どれだけ場を占めるか。

その判断は、
勇気や計算によって行われていない。

位置は、
すでに通過してきたものの中で、
静かに決まっている。

だから、
同じ場所に立っても、
同じ位置にはならない。

位置は、振る舞いの結果ではない。
振る舞いが生まれる前提である。

前に出ようとして前に出る人と、
気づけば前に立っている人は、
同じ動きをしていない。

後ろに下がる人と、
自然に後景になる人も、同じではない。

人は、
立つ場所を選んでいない。

けれど、
そこに立ってしまったこと自体が、
すでに、その人の選択になっている。



そこに立ってしまったこと自体が、
すでに、選択だった。



Edition — 存在の芯
別景：位置

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026